

Q キャンパスライフは楽しめますか？

A 栄や名古屋駅へのアクセスがよく、
キャンパスライフも充実。

歯学部のカampusは、学生が多く集い、高級感のある本山エリアにあります。栄や名古屋駅など主要エリアへのアクセスも抜群。緑豊かで、おしゃれなカフェが立ち並ぶ環境で、学生は充実したキャンパスライフを送っています。

カフェテリアは居心地がいい！
Wi-Fiの環境もばっちり



文教地区ならではの閑静な
エリアにキャンパスはあります



キャンパス内は居心地の
よいスペースがたくさん



● 補元キャンパス (1年次～4年次)

名古屋駅 地下鉄東山線 15分 本山駅 徒歩 5分 補元キャンパス

● 末盛キャンパス (5年次～6年次)

名古屋駅 地下鉄東山線 14分 覚王山駅 徒歩 2分 末盛キャンパス

栄や久屋大通など
中心街からも近い立地！



名古屋へは地下鉄一本、
県外から通う学生も多いです



覚王山や本山エリアは、オシャレな
カフェSPOTも多いので嬉しい！



ここも
CHECK

Q 部活動は何がありますか？

A 30の運動部と
10の文化部があります

実は歯学部はクラブ・サークルの活動がとても盛んです。種類も豊富で、多くの学生が参加しています。運動部が参加する「全日本歯科学生総合体育大会」では3年連続総合優勝[※]したことがあります。
※2016年度(第48回)～2018年度(第50回)において

クラブ・サークル例

- アーチェリー部
- 空手道部
- 柔道部
- 弓道部
- 剣道部
- 日本拳法部
- 少林寺拳法部
- 野球部
- バスケットボール部
- バレーボール部
- バドミントン部
- 卓球部
- ラグビー部
- サッカー部
- スキー部
- 陸上競技部
- ゴルフ部
- テニス部
- フットサル部
- ヨット部
- 水泳部
- ボウリング部
- 軽音楽部
- 管弦楽団
- 写真部
- 美術研究会
- 映画研究会 など



勉強と部活の両立法を先輩に教えてもらおう！

Q 学費の支援はありますか？

A 奨学金をはじめ、歯学部共済会の支援制度もあります。学納金も注目です。

歯学部 くすのき奨学金

歯学部 共済会

スーパーエクセレンス

エクセレンス

6年間最大 1,485万円給付

1年次年額 560万円給付

対象試験 / 前期試験A:1名

対象試験 / 前期試験A:3名

1年次入学金、歯学教育充実費及び授業料全額給付
並びに2年次から6年次授業料半額給付

1年次入学金、歯学教育充実費及び授業料全額給付

※2年次以降は成績などの条件を満たした場合に給付します。

歯学部では独自に共済会を組織しています。この共済会制度は、学生の歯学部入学と同時に学生の父又は母の学費支弁者が会員となるものです。万が一会員が学生の在学中に死亡、または廃疾の状態となった場合、共済会が大学へ学費相当額を寄附することにより卒業までの授業料の全額を大学が減免する仕組みで、学生は安心して勉学に励むことができます。また、学生に対する育英奨学事業を行います。

先駆けとなる学納金システムで授業のICT化にも対応！

【学納金に含まれるもの】

学納金

日本の私立歯科大学では先駆けと言える学納金です。卒業までに必要な研修代、全科目の教科書と実習器具、全国共用試験受験料(全4回)、モバイル・パソコン機器が含まれ、入学直後からタブレット授業やオンライン授業に対応。追加費用はほとんど発生しません。
※実験実習費を除く。

- ✓ 授業に必要な教科書
- ✓ パソコン
- ✓ タブレット端末(iPad)
- ✓ 実習器具一式
- ✓ 1年次一泊研修費用
- ✓ 全国共用試験受験料(全4回)

補元キャンパス(1～4年次) 〒464-8650 名古屋市千種区補元町1-100 TEL*052-751-2561(代)

◎地下鉄東山線・名城線「本山」駅下車 1番出口から徒歩約5分

末盛キャンパス(5～6年次) 〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11 TEL*052-759-2111(代)

◎地下鉄東山線「覚王山」駅下車 2番出口から徒歩約2分

*掲載内容は取材した時点の情報です。

Aichi Gakuin University

NEW

国家試験合格
をナビゲートする
新システム始動

入学前に知りたい
歯学部
のこと

卒業後、歯科医師になってから
受けられるサポートはありますか？

国家試験対策は
どのようなものがありますか？

学費の支援はありますか？

他大学にはない
特徴はありますか？

最先端の研究や
治療に触れる機会
はありますか？

キャンパスライフは楽しめますか？

Q 国家試験対策はどのようなものがありますか？

A 愛知学院大学がめざすのは、国家試験**全員合格**です。
日々の学習から日常生活まであらゆる面での悩みや困りごとの相談にのり、学生を支援します。

歯科医師国家試験合格に向けて、1年次から6年次まで徹底的にサポート。学生同士の団結力を高め、連携をとりながら勉強の支援をし合い、教員も一丸となって全員合格をめざします。

全員合格に向けて6年次まで徹底SUPPORT!

歯学部 学生支援室

1年次～6年次

国家試験の受験に向けて1年次から6年次まで一貫してサポートするため、これまでの仕組みを一新。具体的には、各学年を10班に分けて、班ごとにチューターが1名担当します。チューターは日々の学習や進級、日常生活からクラブ活動まで、学生生活のあらゆる面での悩みや困っていることの相談役となります。各学年10名×1～6年生＝総勢60名のチューターが手厚く支援していきます。

point

- チューターに学習方法や苦手科目の克服法などを相談できる
- 定期的に面談があるので、自分の学習状況を把握できる
- 学習だけでなく日常生活やクラブ活動など何でも相談できる



臨床実習をSUPPORT!

ローテーショングループ

5年次

5年次からは附属病院での臨床実習が始まります。臨床実習では、ローテーショングループ(10名程度の学生で構成)に対して、数名の担当教員が配置され個別指導・実践的指導を行います。

point

- 実習中の疑問や不安を解消できる
- 個別指導を受けられるので技術面も安心
- 知識と技術の定着を図れる

国家試験合格を直接SUPPORT!

国家試験受験対策

6年次

『学生支援室』6年次の室長である学年主任を中心に対策を進めます。1年次から6年次までサポートを続けるため、個々の学生の状況に応じたきめ細かな支援が期待できます。チューターが親身に寄り添い、苦手分野を個別指導したり、学生同士の相互学習をサポートしたり、希望者向けにテーマ別講義を実施したりと、必要に応じて様々な対策を実施。学生と教員が一丸となって受験に臨みます。

point

- 自己学習をしながら、教員の支援を受けられる
- 1年次から継続するサポートなので、相談しやすい
- 国家試験に向けたメンタル面のサポートも受けられて安心

* 1年次

2年次

3年次

4年次

5年次

6年次

学ぶ内容

演習や教養科目講義を通じて知識・教養を深める

歯や口腔の形態・組織、人体構造機能についての講義・実習

医療行為を行う前に必要な基礎知識を必要とした講義・実習

臨床の体系的な知識・診断、技能を得るための講義、実習
共用試験 (知識と技能)

附属病院での診療参加型臨床実習
総合試験

卒業試験 を経て国家試験合格をめざす

入学したばかりで不安

だれに相談すればいいのかな?



実習では日々疑問が出てくる

勉強が難しくなってきた



5年次からの臨床実習大丈夫かな



とにかく合格したい

自分の学習方法であっているのか心配



国家試験合格

情報分析による、データに基づいたサポートを行います

歯学教育情報管理分析室 1年次～6年次

入学時以降の学生の成績データ、全国共用試験の成績情報を分析し、各学生の指導にあたります。

さらに

国家試験対策の特別授業、また予備校による模試や講義も学内で受けることができます。あらゆる視点から学生生活をトータルにサポートする体制が整っています。

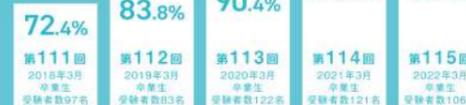
歯科医師国家試験

本学の国家試験の受験率は年々増加しています。

2022年1月 第115回 歯科医師国家試験 受験率

100%

出願者:106名 [全国私大平均] 70.8%
受験者:106名



過去5年 国家試験受験率

2022年1月 第115回 歯科医師国家試験

66名 合格者数

出願者数106名(6年生全員)合格率62.3%

6年生在学人数に対する合格率

全国私大3位

出典:厚生労働省 第115回歯科医師国家試験
6年生在学人数は各大学2021年5月公開情報集計

Q 卒業後、歯科医師になってから受けられるサポートはありますか？

A 全国に卒業生ネットワークが広がっているので、就職や開業の相談はもちろん、講習会や情報共有などさまざまな支援が受けられます。

全国から学生が集まる愛知学院大学歯学部。卒業生を組織化した同窓会が各地に設置されており、在学中はもちろん、卒業後も48支部の同窓会ネットワークを活用できます。

愛知学院歯学部同窓会

全国48支部。卒業後も多面的にサポート

愛知学院歯学部同窓会は会員数7,612名を数え、全国に都道府県単位で48支部を設置しています。東海地区に限らず、どの地域で歯科医師として働くとしても、就職や開業の相談ができるので安心です。同窓会では各種講演会やセミナーを開催し、就業後も知識や技術を深めることができ、懇親会などで情報共有をして歯科医師全体の向上を図っています。在学中から卒業生と連携を深めることができ、卒業してからのネットワークづくりのサポートもしています。さまざまな地域からの仲間と交流し、人脈を広げられることができるのも本学の特徴です。



point

- 7,612名以上の組織化された卒業生と情報共有でき、**歯科医院運営に活かせる**
- 全国に支部があるので、どの地域で**就職や開業するの**も相談できて安心
- 卒業後も知識や技術を深め、**歯科医師としてスキルアップ**ができる
- 各地の課題や取り組みを共有し、**地域の歯科医療発展に貢献**できる

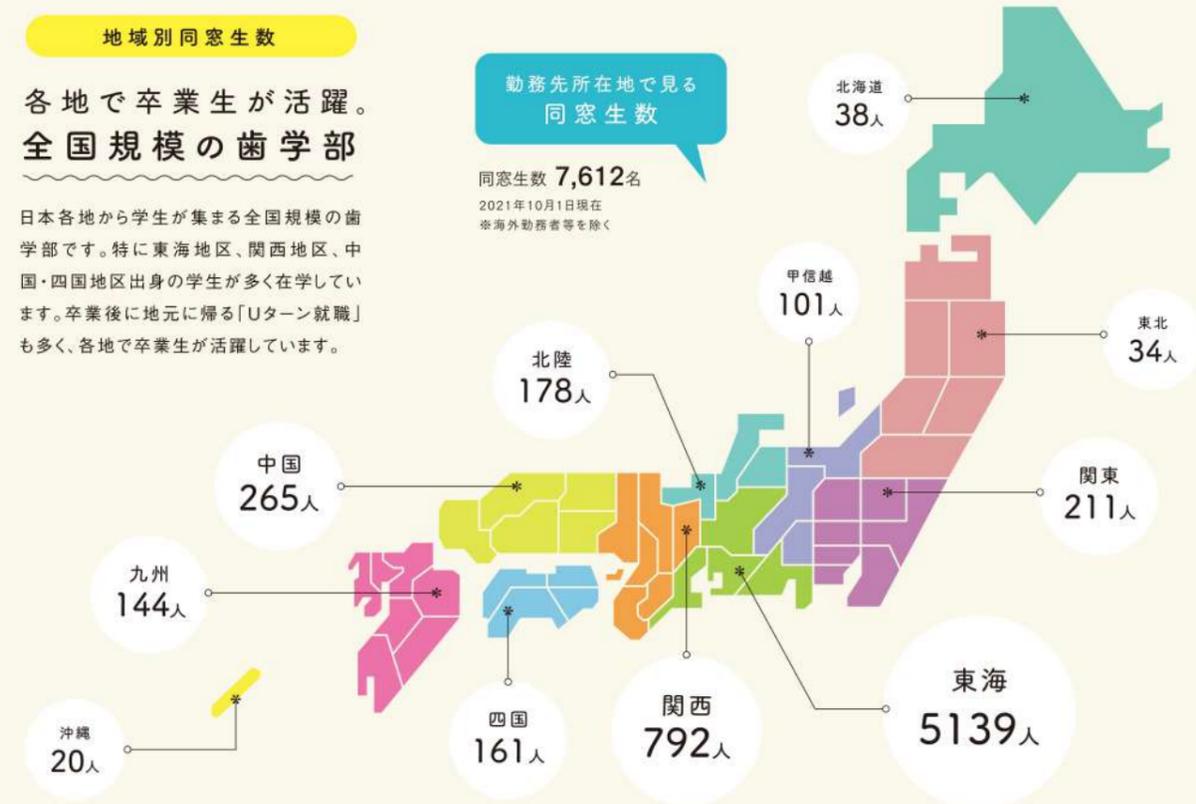
pickup

愛知学院大学の卒業生は「**歯科医師会**」を支えています。愛知県をはじめ、「**歯科医師会**」の会長を務める卒業生も多く、全国の歯科医療を支える存在として活躍しています。また、愛知県の「**歯科医師会**」は6割以上が愛知学院大学の卒業生です。

地域別同窓生数

各地で卒業生が活躍。全国規模の歯学部

日本各地から学生が集まる全国規模の歯学部です。特に東海地区、関西地区、中国・四国地区出身の学生が多く在学しています。卒業後に地元へ帰る「Uターン就職」も多く、各地で卒業生が活躍しています。



卒業生メッセージ

病院勤務や開業はもちろん、海外で保健活動にあたるなど、卒業生の活躍の場が広がっています

たきかわの森歯科クリニック 院長 長谷川 正和さん 2009年3月卒業

卒業してからは「インプラント治療」を学び、愛知学院大学の先生に後押しして頂きアメリカへと留学しました。勉強するうちに「子供が虫歯になる前にできること＝予防」の大切さに意識が向いて、今はこの分野を追究しています。歯を起点に口の健康、正しく食べること、食育と、歯科医師の領域を超えることにも取り組んでいます。学生時代の仲間からは耳の痛い意見も受けませんが、それを言い合えるのは6年間一緒に過ごした時間があるから。厳しい意見こそ成長の糧になる。それを手に入れられたと思います。



タツキ歯科クリニック 院長 長谷川 龍貴さん 1989年3月卒業

大学で学んだことはもちろん基礎として大切なことばかりですが、それで勉強は終わりとはなりません。医療は常に進歩し続けているから、卒業後もずっと情報をアップデートしていく必要があります。その時頼りになるのが、歯科医師同士のネットワークです。愛知県には、自発的に集まって勉強会や講演会を行う歯科医師の小さなコミュニティがたくさんありますが、そのメンバーの数が多くが愛知学院大学の卒業生。平日の仕事が終わった後にちょっとした相談ができる人がたくさんいるのは本当に心強い。この繋がりは宝物です。



開業医



そんな仲間の叱咤激励が成長の糧です。

耳の痛いこともあえて言ってくれる。

学生時代からのつながりがあるから、

でも、その道のりは孤独ではなく、

卒業してからも学びは続く。



開業医

助け合い学び合う繋がりがあります。

Q 他大学にはない特徴はありますか？

A 中部地区最大[※]の歯科病院と総合大学であることを活かし、歯科医師としての可能性を広げるカリキュラムを用意しています。

中部地区最大[※]の歯科病院があるからできる

地域の歯科医療を担うさまざまな症例に触れる臨床実習

歯学部附属病院には200台程度の診療台があり、数多くの症例を臨床実習で見学することができます。5・6年次には診療参加型の臨床実習で、診断から治療計画、虫歯・歯周病や補綴（入れ歯など）の治療を実践、知識の定着を図ります。担当の先生のサポートを受けながら、歯科医師としての自覚や患者さんとの向き合う姿勢も養います。

※中部地区における最大診療台数



CHECK!

将来の選択肢、可能性を広げる附属病院ならではの特徴

- ◎15の専門診療部、9の特殊診療部、17の特殊外来があり、対応している診療、症例が多い
- ◎最先端の歯科医療（顕微鏡歯科、レーザー治療、CAD/CAMなど）に触れることができる
- ◎在宅歯科、訪問歯科など地域医療における歯科医師の役割を学べる
- ◎多職種連携を体験できる



薬学部や短期大学部、歯科技工専門学校が

あるからできるチーム医療を意識した多職種連携教育

現在、多職種の連携が求められる在宅医療のニーズが高まっています。時代に合わせて歯科医師の役割を高める知識・スキル・姿勢を養います。

他学部連携

1年次に歯学部・薬学部の合同で「PBL (Problem-Based Learning) 問題基盤型学習」を実施。事前に配られる「シナリオ」をもとに、両学部の学生がグループワークで、身近な健康問題についてディスカッションし、お互いがめざす職種への理解を深めます。また、5年次には、歯・薬学部と短期大学部（歯科衛生士）、専門学校（歯科技工士）の学生が加わるPBLも実施。チーム医療の中で多職種と連携し、各自の専門性を発揮するための高い意識や知識・技術を修得します。



学部、大学を越えて総合的に医療を学ぶ

他大学連携

3年次に他大学と合同で「TBL (Team-Based Learning) チーム基盤型学習」を実施。2019年は、藤田医科大学（医学部、医療科学部）、名城大学（薬学部）、日本福祉大学（社会福祉学部）、愛知学院大学（歯学部、心身科学部）の900名近い学生が参加。事前の個人学習をもとに、各大学の混合チームで「地域住民の問題」に取り組みます。将来、専門職として活躍するために、多職種と協力しながら、患者さんの健康問題を解決するプロセスを体験できます。

Q 最先端の研究や治療に触れる機会がありますか？

A 世界が注目する研究から、ニーズの高い治療まで、トップクラスの研究や治療が揃っています。

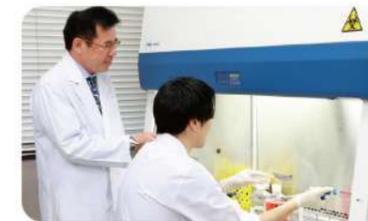
研究 注目の再生医療

歯髄から採取する幹細胞が再生医療の可能性を広げる



本田 雅規 教授

人間の自己修復能力の元になる幹細胞を増やし身体に戻すことで、病気やケガを治すのが再生医療。本田先生の研究室では脂肪から採取した幹細胞で歯周組織を再生する研究に成功。附属病院でこの治療が始まります。また、歯髄の幹細胞で骨をつくる研究も企業と進行中。歯髄は乳歯や親知らずから簡単に採取でき、短期間の培養で多くの細胞が得られ、凍結して保存することも可能。歯から採れる歯髄細胞は再生医療において大きな可能性を秘めています。



【口腔解剖学講座】

再生医療では自己や他人の細胞を移植しますので、基礎研究において細胞の特性や再生メカニズムを深く探究することが、安全な治療法を確立するために必要不可欠なものです。本学は基礎講座と臨床講座が連携し、研究成果をすぐに附属病院で活かすことができます。

研究 性差のカギを握る遺伝子

今や解剖学は遺伝子の世界。“人体”の視野で歯学に向き合う



池田 やよい 教授

解剖学と聞くと人体の構造を直に確かめる技術を想像しがちですが、今は遺伝子レベルで人体構造を解き明かす分野。池田先生は遺伝子に手を加えたマウスを用いてからだ（生殖器、脳）の構造の性差形成、すなわち「性分化の分子機構」について研究しています。一見、歯学と関係ないように思えますが、「歯は食べ物に触れる最初の消化器官。必要な知識は医学部と変わりありません。解剖実習を通して、人体の構造を学ぶことはもちろん、医療人としての自覚と責任、倫理観を身に付けて欲しい」と解剖学を学ぶ意義を教えてくださいました。



【解剖学講座】

解剖学は人体の正常構造を理解、探求する学問で、医学・歯学の教育、研究に必須の知識を習得する基礎科目です。研究室では、からだの構造を形作る分子メカニズムを機能、発生、環境による影響という点に着目し、組織学的、分子生物学的手法を用いて解析しています。

治療 治療よりも大切な予防医療

健康な歯を守ることが、健康寿命を延ばすことになる



嶋崎 義浩 教授

日本はすでに全人口の1/4以上が65歳以上の超高齢社会。高齢者の健康寿命を延ばすにあたり、日常生活の動作（ADL）や免疫機能の低下につながる「低栄養」を予防する口腔の役割が注目されています。嶋崎先生は、口腔と全身の健康の関連性を解明するための疫学研究に取り組んでいて、高齢者の口腔の健康や栄養状態が全身の健康に及ぼす影響についても研究を行っています。できる限り健康な歯を保持し、歯を失わないようにすること。それは、高齢者はもちろんあらゆる人の生活の質（QOL）を上げ、心身の健康（健康寿命）を延ばすことになるのです。



【口腔衛生学講座】

口腔衛生学は、歯や口腔の健康（口腔保健）を保ち続けるための科学と技術を研究する学問分野であり、将来皆さんが地域で歯科医師として活躍する場合は特に必要となる分野です。口腔疾患の予防に重点を置いて、地域に暮らす人々の健康を守る歯科診療の未来を開発しています。

治療 地域を支えるチーム医療

様々な医療技術者が一体で、地域の人々の生活を支える



木本 統 教授

厚生労働省は、2025年までに高齢者が可能な限り住み慣れた町で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるようにサポートする地域包括ケアシステムの構築を目指しています。「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」を繋ぐ概念です。この実現に向けて人材を育成します。歯科医師だけでなく医師、看護師、介護福祉士など多くの人たちとのチーム医療が必要です。現場での技術はもちろん、根底に心の通う連携が必要です。「医は仁術なり」使い古された言葉ですが、今の学生さんに最も届けたい言葉です」と木本教授は言います。



【高齢者・在宅歯科医療学講座】

歯科補綴学（補綴＝歯の欠損を入れ歯や冠で補うこと）を基軸として、高齢者の歯科治療、研究、教育に取り組んでいます。これからの歯科治療は診療室を受診できる患者さんだけでなく、通常の外来での歯科治療を享受できない在宅の患者さんに対する包括的な治療が大切になります。